

## 論文審査の結果の要旨

氏名：山本 興一郎

博士の専攻分野の名称：博士（文学）

論文題名：古代ローマ共和政終焉期・帝政草創期の表象と政治  
—「故ユリウス・カエサル」の利用を軸に—

審査委員：(主査) 教授 坂口 明

(副査) 教授 森 ありさ 教授 土屋 好古

青山学院大学文学部教授 阪本 浩

本論文は、紀元前44年3月15日のユリウス・カエサル暗殺後、紀元前27年のローマ帝政成立までの期間における錯綜した政治過程において、カエサルに関する表象が、実力者たちによってどのように利用され、影響を及ぼしたかを論じたものである。なお、この論文において「表象」という言葉は、カエサルの事跡や彼に関連する自然現象、名前、血統など、カエサルを想起させ何らかの反応を引き起こすものという意味で用いられている。

第1章では、カエサルの神格化までの時期が扱われている。カエサル暗殺後の混沌とした状況の中で、カエサルの腹心であったアントニウスは、カエサルの残した公文書と追悼演説で、カエサルの断罪と自身の地位失墜を阻止する。次に偽マリウスは、カエサルとの血縁関係を主張して支持を集めようとし、カエサルの火葬の場に記念建造物を創始する。彼自身は失脚するが、この動きは「下からの」動きとして継続していく。一方オクタウィアヌスは、カエサルの養子・相続人という立場をフルに利用し、アントニウスに敵対するキケロの援助も受けながら公的立場を獲得し、カエサルの政治的遺産を継承しようとした。このような中、彗星の出現という自然現象が、カエサルが天に受け入れられたという言説を生みだし、カエサルの神格化は、三頭政治家たち（アントニウス、オクタウィアヌス、レピドゥス：第二回三頭政治）によって、暗殺者たちと対抗するために公式化された。

第2章では、アントニウス兄弟とオクタウィアヌスの間でおこなわれたペルシア戦役の時期が取り扱われる。オクタウィアヌスが「神なるユリウスの息子 *divi Iulii filius*」という立場を利用したのに対し、アントニウス兄弟はユリウス・カエサルを尊重する姿勢を取りながら、オクタウィアヌスのカエサルとのつながりを弱める主張をおこなった。他方、両軍に動員されたカエサルの元兵士たちには、同志討ち忌避の傾向があり、カエサルを利用する両者の行動を制約していた、という。

第3章では、カエサル派と敵対していた故ポンペイウスの息子たちの父親の利用と、それがオクタウィアヌスのカエサル利用に与えた影響が論じられる。ポンペイウスは生前に、アレクサンドロスになぞらえて *magnus*（偉大な）という称号を名乗り、その息子たちは父親の名声を利用して自分たちの立場を有利にするために、その称号を *cognomen*（添え名）あるいは *praenomen*（個人名）として用いた。オクタウィアヌスは、生前カエサルに与えられていた *imperator*（最高司令官）の称号を *praenomen* として用いるようになったが、これはポンペイウスの息子の *magnus* 使用に影響されたものだと山本氏は主張している。

第4章では、内乱の最終段階であるオクタウィアヌス対アントニウス・クレオパトラ連合の戦いにおける、カエサルとクレオパトラの息子カエサリオンの利用が論じられる。クレオパトラはカエサル暗殺前から息子を「カエサルの子」としておし立てており、アントニウスも自らを「カエサルの子の保護者」として位置付け、オクタウィアヌスの「カエサルの唯一の息子」という基盤を弱めようとした。オクタウィアヌスはカエサリオン否定に努め、アレクサンドリアの占領後カエサリオンを処刑した。その後「神なるユリウス神殿」などの奉納、カエサルが始めた建築事業の完遂などを通じて、オクタウィアヌスは権力を確立していく。

山本氏は、以上に論じてきた過程の中でローマ皇帝像の核が形成されたのであり、表象としての「故カエサル」とその利用をめぐる動きこそが、生前のカエサルと初代皇帝アウグストゥスの間にある断絶を橋

渡しするものであったと結論している。

この論文は、文献史料はもとより、碑文、コインの画像と銘など多数の史料を駆使し、関連文献も幅広く参照して論述を進めている。ところどころに史料の解釈上の難点、やや強引な論旨が見られるなど問題点はあるが、それらは今後の課題として克服されていくと思われる。それよりも、共和政最末期から帝政成立に至る政治過程を、カエサルにまつわる表象の利用というユニークな観点から再検討し、オクタウィアヌスだけでなくアントニウスや偽マリウスやクレオパトラのカエサル利用、ポンペイウスの息子たちの父親の利用、それらのせめぎあいを鮮やかに解明した点は、高く評価されるべきである。

よって本論文は、博士（文学）の学位を授与されるに値するものと認められる。

以 上

平成27年1月22日